



ちょっと一息…

「日本」と「アジア」のごみ処理事情…

私たちの住む日本では、基本的に家庭のごみは、まず各家庭において分別排出され、各市町村により適正に資源化や焼却・埋立処理されます。

では、日本を取り巻くアジアの国々のごみ処理事情はどうでしょうか。

多くのアジアの国々には、「スカベンジャー」と呼ばれる人々が大勢います。「スカベンジャー」とは、ごみ捨て場のごみの中から金属などの換金可能なごみを拾って生活をしている人々のことです。彼らの多くは、地方の農村部から都市へ豊かな生活を夢見てやって来た人々で、十分な貯えもなく、都会へ行けばなんとかなると思っていたところ、手に職もなく、十分な教育も受けていない彼らがとりあえず日銭を稼ぐため、「スカベンジャー」となるのです。

例えば、フィリピンの首都マニラ郊外に「スモーキーマウンテン」と呼ばれる巨大なごみ捨て場があり、その周辺に「スカベンジャー」の住む町があり、これは日本のテレビなどでも紹介されています。「スモーキーマウンテン」の名は、ごみ捨て場に捨てられた生ごみなどが発酵して、絶えず煙をあげていることに由来し、現在は閉鎖されていますが、すぐ近くに新しいごみ捨て場が作られ、そこで「スカベンジャー」の生活は続いています。

彼らの生活は厳しく、きちんと分別されていないごみの中には、病院などから出された医療廃棄物も混じっており、そこから感染症にかかる人も大勢います。また、積み上げられたごみの山が内部で発酵、発火して、突然陥没することがあり、そこに落ちて焼死する人もいます。危険な作業にも関わらず、そこから得られる収入は僅かであり、職業訓練はおろか、初等教育を受けることもできない子供たちが一生そこから抜け出せずに生活しています。こうした国々におけるごみの「資源化」はスカベンジャーによるところが多く、彼らにとってもごみ捨て場なくしては生活が立ち行かない状況となっています。

日本でもごみがどのように「処理」され、また「資源化」されているのか知らない人が多いと思います。目に触れることのない現実を知ることにより、街角にうち捨てられた空き缶・空きびんが皆さんの目にも違って見えてくるかもしれません。



岩波フォトドキュメンタリー
「フィリピンの最底辺」より



ごみの減量・リサイクルに役立つ情報をお待ちしています！

平成17年度に発行を開始した3Rニュースも今年度で3周年を迎えます。3Rニュースでは、市民の皆さんが日々行っている、ごみの減量・リサイクルに向けた取り組みについても広く紹介していきたいと考えています。ごみの減量・リサイクルに役立つ情報、町内会等で行っているユニークな取り組み等ございましたら環境局廃棄物政策担当までどしどしお寄せください。

ごみ減量・リサイクル推進の ボランティア・リーダー

廃棄物減量指導員にご協力ください。

廃棄物減量指導員は町内会・自治会などの住民組織団体から推薦を受けて、市長が委嘱し、ごみ排出方法の遵守指導や、ごみ減量の普及啓発などの活動を行っている地域のボランティア・リーダーです。



編集後記



地球温暖化問題に警告を発し続けてきた前アメリカ副大統領アル・ゴア氏のノーベル平和賞受賞の一報を聞きながらふと思いました。地球温暖化対策の一環としてバイオ燃料の利用が進められ、そのバイオ燃料の原料となる穀物価格が世界的に高騰し、我らが庶民の味方カップ麺もその煽りで値上げされるとのこと。「風が吹けば桶屋がもうかる」的な連鎖の環の中に自分たちは生きているのだとあらためて実感している今日この頃です。(T)

編集・発行／〒210-8577（住所はなくても届きます）川崎市環境局廃棄物政策担当

（電話）200-2580（電子メール）30haise@city.kawasaki.jp

ごみ・リサイクルに関するHP/<http://www.city.kawasaki.jp/30/30genryo/home/menu.htm>

re100
ごみ減量100%のまちづくりを推進しています